

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 小型浮魚類回遊生態の解明と漁場予測技術の確立
2. 研究代表者： 西川 悠（海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門 副主任研究員）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

海洋環境データによる漁場予測と魚の回遊モデルを統合し、さらに魚群探知機のデータを加えることにより、漁場予測精度向上や魚種予測も目指す挑戦的な課題である。

フェーズ1では、魚群探知機データによる魚群の判別、マサバの漁場予測、海流速度を考慮したマサバ産卵回遊モデルの開発を行っており評価できる。フェーズ2では、魚群探知機データの充実に注力し、収穫量データと海水温などの環境データを組み合わせることで、より精度の高い漁場予測技術の確立を目指していただきたい。

以上